地学と切手

ナウル島と
ギルバート諸島の
燐鉱床切手

P. Q.

南太平洋赤道直下に　世界最小の共和国がある．　面積約21 km²（伊豆大島の４分の１）人口7,000人弱のナウル共和国がそれである．　ここでは国民平均所得１人当り31,000ドル　教育・病院・新聞は無料　税金無しの一見楽天地であるが　これは総て全島を覆っているグアノ鉱床によっている．　しかしナウル島民の歴史は苦難に満ちたものであり　現在の状態が果して真の幸福かどうかは不明であろう．　ナウル島は1888年からドイツに領有され　第１次大戦後にイギリス　ニュージランド　オーストラリア３国に委任統治された．　太平洋戦争中は日本軍が占領し　戦後再び３国統治にもどったが　1968年に独立して共和国となった．　占領した日本軍は食糧事情から島民の半数をトラック島へ送ったが　そこで出会ったのは空襲と饑餓であり　戦後帰島出来たのはそのまた半数に過ぎない．　彼等は今でも帰島した1946年１月30日を真の独立記念の日としている．ここでは燐鉱石を輸出する代りに　生活物資はすべて輸入　水さえも輸入に頼っている．

海洋における燐分の濃度は一様でなく　深海の冷い海水中では PO_4 で 0.3ppm　浅海の暖い海水は 0.01ppm の PO_4 を溶解している．　この深海の燐分に富む海水が上昇するのはおもに大陸の西側とか赤道帯であり　この様な場所で燐分は生物帯の組織や排泄物として　有機的に海底に沈澱したり　あるいは直接無機的に沈澱する．　グアノ（guano）鉱床は赤道帯に上昇して来た海水中の燐分がプランクトン-魚-海鳥の順に濃縮され　海鳥の排泄物中の燐が珊瑚礁石灰岩と反応して生成した燐酸カルシウム $Ca_3(PO_4)_2$ を主とする燐鉱床であり　肥料として利用される．　鉱床は通常10～20mの厚さで　珊瑚礁石灰岩の間を埋めた形で存在し　太平洋のクリスマス島　アンガウル島　オーシャン島などにも知られている．

ナウル島は全島の約５分の４が燐鉱石で覆われ　埋蔵量はかつてオーシャン島と合わせて１億トンと試算されたことがある．ナウルの燐鉱石の発見は　1900年に当時ドイツ領であった島にあったパシフィックアイランドカンパニーのシドニー事務所の戸口にドアステップとして置かれた石を　アルバート・エリスによって確認されたのを最初とされている．　採掘は最初ほそぼそと続けられたが　最近は次第に機械化されると共に大がかりとなり　今では３分の２が掘りつくされ　島の各所には基盤の石灰岩がむき出しになっている．　独立後の1970年に採掘権は政府に引きつがれたが　実際の採掘は　約600人の白人があたっており　島民はその収益で生活している．　鉱石は1990年代には涸渇すると計算されており　その後については島民は指導者まかせで　政府が何とか考えてくれるとしている．　政府は収益の80パーセントを世界各国に投資しており　その後は土壌を移植して農業国になるか　大部分が移住するかしかなさそうである．　ちなみにナウルと鹿児島の間は定期便で結ばれている．

切手は1975年７月23日の４種は　５ｃ：1900年の鉱石発見75年でナウル島の地図　戸口の燐鉱石　発見者アルバート　エリスの肖像．　７ｃ：燐鉱協定70年記念で1905年設立の太平洋燐鉱会社による発掘と運搬の様子．　15ｃ：英連邦燐鉱委員会発足55年記念で鉱石積出し風景．　25ｃ：ナウル燐鉱会社５年記念で掘さく機とダンプカー　沖には積出しの様子．

10ｃは1974年発行のナウル島発見175年記念切手の中の燐鉱採掘．　3.5ｄは1954年発行の燐鉱積出し．

同じ南太平洋のギルバート・エリス諸島でも1960年に燐鉱発見60年記念として３種の切手が発行された．　エリス諸島は1976年に独立してツバルーと称するようになり　人口7,000人の国が誕生したが　今度は人口2,000人のオーシャン島にも独立のムードが高まっている．　これらはパプア・ニューギニアのブーゲンビル島と同じ資源ナショナリズムのなせる風潮であるが　今後の世界の行き方を暗示するひとつであろう．

ギルバート諸島の中には　マキンとタラワの両島があり　いずれも太平洋戦争中に激戦のあったところである．